

# 屋外でダニに咬まれないように注意しましょう

～津山市医師会～

ウイルスを保有するマダニに咬まれることにより発症する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が、岡山県など西日本各地にて発生しています。死亡例もみられます。

## § 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

ウイルスを保有するマダニに咬まれたときに、そのウイルスが体内に入ることにより感染します。2009年に中国の湖北省にて確認された新種のウイルスによります。

マダニから感染したのち、ヒトからヒトへも感染します。

咬まれてから1～2週間で発熱、だるさ、食欲不振、下痢、嘔吐といった症状がおこり、死に至ることもあります。

今年は九州・中四国にて8月4日時点で33例の発症が確認され、15例が死亡されており、死に至る事例が実に半分弱にのぼることになります。

ただし、屋外でマダニに咬まれることそのものは珍しいことではなく、何事もなく終わるのが大半です。

## § マダニとは

室内で布団などに生息するダニとは異なり、屋外に生息します。

大型で、3～4mmのものもあります。

咬みついたのち数日から10日間にわたり皮膚に吸着し、吸血しますが、痛み・かゆみはほとんど感じません。



## § 咬まれないことが第一です

屋外作業の際には、長袖、長ズボン、手袋、首にはタオルを巻き、ダニ除けスプレーを使いましょう。

要は、肌の露出をできるだけ少なくすることです。

帰宅後は服を着替え、お風呂などで皮膚に虫が付いていないか、刺し口と思われる皮疹がないか、よく見ましょう。

直径5～10mmほどの発赤と、中央に刺し口の皮疹がみられ、そこに吸着した虫体がみられれば確定的です。

## § 引き抜かないようにしましょう

マダニと思われる虫体が皮膚に付着している場合、無理にはがそうとすると、口（口器）の一部が人体内に残ります。

ワセリンなど軟膏の類を塗って1時間ほど放置すると窒息して死滅し、はがしやすくなります。無理な場合には医療機関を受診しますが、処置可能か問い合わせた上で皮膚科、形成外科、外科を受診されるのがよいでしょう。

## § はがせた後でも

体内にウイルスが残っていることがあります。咬まれたあと1～2週間は、発熱、嘔吐、下痢に注意し、症状があれば医療機関を受診して、屋外でダニに咬まれたことも伝えてください。

## § お年寄りには特に注意

事例の年齢分布は40歳以上、特にお年寄りに極端に偏っています。

お年寄りが咬まれやすいのではなく、小児や若い人では発症しないか、症状が軽く済んでいるのでは、と考えられます。

お年寄りで、屋外作業の多い方は、特に注意してください。

## § マダニによる感染症と診断されたら？

基本的には医師の指示に従っていただくこととなります。

抗菌薬の使用が一般的です。

SFTS が濃厚となれば、抗ウイルス薬も用います。

肝障害、腎障害、膵炎の合併や、神経症状（意識障害、失見当識）のみられることもあり、症状に応じた治療を行います。

## § まとめ

マダニによる重症感染症が発生しています。

屋外作業の際には、できるだけ肌の露出を少なくしましょう。

屋外でダニに咬まれたら、問い合わせた上で、皮膚科、形成外科、外科を受診しましょう。

1週間は発熱、嘔吐、下痢に注意しましょう。

中島病院 武田 伸郎

お問い合わせ：津山市健康増進課

TEL0868-32-2069